



給餌活動で 命をつなぐ 宮島の鹿

01 宮島の鹿の歴史と文化的背景

神鹿としての歴史

宮島の鹿は古くから神鹿(しんろく)として大切に扱われてきました。明治時代にはすでにその存在が尊ばれていたことが、さまざまな資料から確認できます。

戦後の鹿の飼育

第二次世界大戦中に宮島の鹿が激減して以降、宮島の大願寺に囲いを作り鹿を飼育し始めました。その後、現在の宮島水族館前に「神鹿苑(しんろくえん)」を作り、飼育しました。

宮島の植生

宮島は一見すると葉が生い茂っていますが、花崗岩が隆起して出来た島のため、土壌の塩分濃度が高く、鹿の食べられる植物が極端に少ないのです。

餓死の危機

観光に不要とされた宮島の鹿を減らすため、2009年に行政より「給餌禁止のお願い」が出されました。その後、ひどく痩せ細った鹿を目にした人たちがボランティアで宮島に渡り、給餌活動を行うようになりました。

全国の協力者

全国の1000名以上の支援者様より、鹿さんのごはんを毎月ご支援頂いております。この活動は16年間にわたって継続されており、全国の皆さんの善意により宮島の鹿たちは生きることができています。

02 現在の課題と保護活動

03 鹿との共存を目指す

鹿を苦しめず共存を

宮島の鹿は長年、広島県の観光に寄与してきた大切な動物です。必要ないから餓死させ減らすという行為は人道に反します。自然を大切に思い動物と共存していく姿勢こそ、自然と命をいっしょに、世界遺産・宮島にふさわしいのではないのでしょうか。

間違いを認める

「宮島の鹿に一生給餌し続けるの?」と言われることがあります。動物を観光に利用したことがそもそも間違いだったと素直に認め、行政による給餌を未来永劫続けるのもありではないのでしょうか。

宮島の鹿の保護

今後はボランティアの善意に依存し続けることなく、廿日市市や広島県が予算を組み、宮島の鹿への適切な給餌を再開することを求めています。



宮島の鹿さんクイズ!



Q 01 鹿の胃の数はいくつでしょう?	Q 02 オスの鹿の角はいつ落ちるでしょう?	Q 03 鹿は何歳くらいまで生きるでしょう?	Q 04 鹿は何を使って仲間とコミュニケーションをとるでしょう?
1 1つ 2 2つ 3 4つ	1 毎年春(3~4月ごろ) 2 毎年秋(10~11月ごろ) 3 一生落ちない	1 3~5年 2 10~15年 3 20年以上	1 声だけ 2 声としっぽの動き 3 声・しっぽ・耳の動き
答え「4つ」 鹿はウシの仲間、胃が4つあり、反芻(はんすう)しながら食べ物を消化します。	答え「毎年春(3~4月ごろ)」 オスの鹿の角は春に抜け落ち、夏に新しい角が生えてきます。宮島では毎年秋に鹿の角切りが行われています。	答え「10~15年」 野生の鹿の寿命は10~15年ほどです。宮島の鹿は環境のおかげで、平均寿命が短いと言われています。	答え「声・しっぽ・耳の動き」 鹿は鳴き声だけでなく、耳の角度やしっぽの振り方でも意思を伝えます。

宮島の鹿さんの現状を各SNSで発信しています

今後も宮島の鹿さんの給餌を続けながら、現場の一時情報を発信して参ります。

